明野通信

（題字：日野伸一校長 筆）

大分工業高等専門学校広報

第 130 号
2020年10月30日
大分市大字牧1666
TEL（097）552-6075
http://www.oita-ct.ac.jp

令和２年度入学式　４月３日㈮

第８回校内英語集中セミナー　９月16日～18日、23日

オープンキャンパス2020　９月５日㈯ 学科見学（写真左）と学校説明会（写真右）

目　次

巻頭言〔校長〕 …… 2
主事室便り …… 3
新任教職員挨拶 …… 4
オープンキャンパス …… 8
学年通信 …… 11
専攻科便り …… 15
学生会便り …… 16
寮生会便り …… 17
新入生・留学生の声 …… 18
地域共創テクノセンターから …… 19
国内インターンシップ報告 …… 20

巻頭言　教育現場における新型コロナウイルス感染症のメリットとデメリット

校長　日野　伸一

令和２年度も半年余りが過ぎました。世界中、まさに新型コロナウイルス一色の毎日だったといっても過言ではないでしょう。

昨年度末に、長年に亘り本校の教育および学校運営に多大のご尽力を戴いた一般科の佐藤達郎教授、堀栄造教授、藤原宏司准教授、久保山力也講師、機械工学科の小西忠司教授および都市・環境工学科の佐野博昭教授が定年退職または転出されました。代わって、本年度より一般科の広瀬裕美子准教授、川野泰崇准教授、小関康平講師、都市・環境工学科の永家忠司准教授、情報工学科の劉怡助教、地域共創テクノセンターの笠間俊次教授、および機械工学科の竹尾恭平講師が着任されました。本校のさらなる発展に向け、新任教員の皆様の今後のご活躍を期待します。

さて、新型コロナウイルスによる感染者数は、本稿を執筆中の10月９日現在、世界中で累計3,600万人、死亡者数が105万人であり、さらに日々増加を続けています。感染症でよく引き合いに出されるのが、今から100年程前に世界中で大流行したスペイン風邪です。スペイン風邪は、第１次世界大戦時の1918～20年にかけてスペインを中心に世界各国で流行し、きわめて多くの死者を出したインフルエンザによるパンデミックの俗称です。これによる感染者数は世界中で５億人、死者数は1,700～5,000万人という膨大な犠牲者を出した人類史上最悪の感染症と言われています。もちろん、当時に比べ、現代の医学、技術の進歩は著しく、スペイン風邪のような大流行があってはなりませんが、予防に必要なワクチンがまだ開発途上であり、実用化まではしばらくの時間を要することから、犠牲者数のさらなる増加は避けられません。したがって、当面は私たち一人一人が「新しい生活様式」による生活習慣を厳守しての自己防衛努力を重ねるしかありません。

世界中の人命だけでなく、経済･社会･教育・文化など、あらゆる分野において甚大な被害をもたらした新型コロナ感染症ですが、一方において、これによってもたらされたメリットというのも挙げられます。それは、コロナ禍により変更せざるを得なくなった日常生活や働き方のスタイルの変化に関わるものです。学校の教育現場や企業、官公庁等において特筆すべきものとして、遠隔授業、TV会議、テレワーク（在宅勤務）など、いずれも近年進展の著しい情報通信技術（ICT）を活用した授業や会議などの業務スタイルの変化が挙げられます。

以下、本校の例について紹介します。本校では、新型コロナウイルス感染症への対応は、一貫して政府、大分県および国立高専機構の対応方針に則り実施してきました。政府による緊急事態宣言延長後の５月12日以降は、遠隔授業を開始しました。Office365 Teamsを利用して、授業の様子をそのまま動画として配信する方式から双方向方式やオンデマンド方式まで、授業科目や教員の技量、受信側の環境によってさまざまな形式で実施しました。それに先立ち、４月の休校（自宅での自学習）および５月連休中の期間を利用して、全教室への授業配信可能なカメラ、マイク、音声ミキサー、PCなどの設置と受信する学生の自宅での通信環境の調査および所有しない学生へのWi-Fiルーターの貸出しなどの準備を行い、遠隔授業の開始に備えました。後日、遠隔授業から対面授業へ変更後に、学生対象に遠隔授業に対するアンケート調査を実施しました。その結果、低学年より高学年の学生の方が遠隔授業の有効性および理解度に対する評価が高く、全体としても有効性90％、理解度50％という評価を得ました。映像や音声の鮮明度、電子教材の併用、質疑応答の双方向通信など、設備等のハード面での課題も多く今後の改善の必要があるものの、一定の遠隔授業環境が整備されたことの意義はきわめて大きいものがあります。今後、新型コロナ禍での対応だけでなく、台風や豪雨などの自然災害発生時の対応策としても大いに活用が期待されます。

また同様に、TV会議システムやテレワークでの在宅勤務も相当程度に活用されました。コロナ禍での３密回避だけが目的でなく、移動時間や交通費の節減につながることも、特に地方在住の私たちにとっては大きなメリットとなりました。社会全体が在宅でのテレワークを活用し、従前から政府が推進してきた「働き方改革」の普及が、今回、急速に進展したと思います。今後、ますます人口減少に伴う労働人口の不足や生産性向上、育児や介護との両立および女性労働者の継続雇用など、課題解決に向け大きな前進があったと考えます。

以上、本年度最大の天敵である新型コロナ感染症によるメリット、デメリットを考えましたが、忘れてはならない最大のデメリットは、人と人の公私にわたる親密なコミュニケーションの機会を奪ったということではないでしょうか。一日も早く、新型コロナウイルスを撃破して感染の恐怖に脅かされることなく、親密なコミュニケーション機会の復活を祈るばかりです。

主事室便り

教務主事
高橋　徹

教務主事室は学生課とともに教育課程・カリキュラム・授業・成績・学習支援・教育環境・入試業務などの教務全般を担当しています。今年度より新教務主事補として情報工学科のプロハースカ・ズデネク先生が加わりました。

新型コロナウイルス感染症対策として、教務上の措置を中心に記します。

４月３日に入学式、４月６日を登校日として実施後、５月８日まで臨時休校としました。この間に遠隔授業の準備を行い、Webカメラを利用して授業動画を配信できるシステムを構築しTV会議のTeamsと併用することにより遠隔授業を実施する体制を整えました。５月11日にWeb上で始業式を行い５月12日から遠隔授業を開始しました。毎朝、Web上でのSHRにおいて出席確認と健康チェックを行い、その後学生は遠隔授業を聴講します。オンデマンドによる聴講も可としました。学生のみなさんには健康観察カードによる毎日の健康チェックとともに、授業や課題や自己学修の結果を学修記録帳に記すこととしました。

６月８日から学年ごとの分散登校を実施し、6月22日より全学年の対面授業を開始しました。体調不良などによる自宅での学習を可能とするために授業動画配信は引き続き行うこととしました。授業開始時刻を遅らせるとともに授業を短縮授業として帰宅時刻も遅くならないように配慮しました。文部科学省の指導に従い、授業中の換気、マスク着用、手洗い手指消毒の励行、３密を避けた食堂配置、授業終了後には各所の清掃消毒を行うなど、感染対策を行いつつ対面授業を実施しました。前期中間の定期試験は行わず、前期期末の定期試験のみを実施しました。４年生の校外研修については感染症の全国的な再拡大のためやむなく県外の校外研修を中止することといたしました。例年７月に行っているオープンキャンパスは中学生と保護者のみに限定して９月５日に実施しました。

後期も感染症対策を行いつつ対面授業を実施する予定ですが、状況によっては再び遠隔授業のみに移行する可能性もあります。ご理解ご協力をお願いいたします。このような中にあって、自ら主体的に学修していく習慣がとても大切です。学生のみなさんには、コツコツと努力していくことを怠らぬようにお願いします。

学生主事
川内谷　一志

今年度の学生主事室は昨年から引き続いて山本通主事補（学生会、１年生オリエンテーション、高専祭担当）上野崇寿主事補（体育行事、クラブリーダー研修担当）藤本教寛主事補（車両指導、巡回指導計画担当）が残り、新しく、とても元気でユーモアたっぷりの永家忠司主事補（音楽祭、ロボコン担当）が加わりました。事務部では森永富美代学生支援係長が着任され、フレッシュな気持ちで取り組んでいます。まずは４月に予定されていた「新入生オリエンテーション」に向けて、学生会としっかりタッグを組んで、全力でサポートとして行こうと思っていましたが、皆さんもご存知の通り全世界を恐怖におとしいれた「新型コロナウイルス」の猛威で中止となってしまいました。平成28年度の熊本・大分地震では急遽学内での開催でしたが、それさえもできない状態でした（感染を避けるため）楽しみにしていた１年生には申し訳なく思っています。５月には学校全体が熱く盛り上がる球技大会が中止。さらに７月に行われる九州沖縄地区高専体育大会も中止になってしまいました。どちらの大会も全力をかけて勝負したかった５年生の気持ちを考えると心が痛みます。そんな中でも学生会の頑張りがあって、開催が難しいと思われていた学生総会を、Teamsで行うことができ、決算報告、監査報告、予算案の審議を無事終えることが出来ました。学生会の皆さん、本当にご苦労様でした。未だに新型コロナウイルスの終息は見えません。後期の行事も例年同様とはいきません。体育祭では競技の簡素化、時間短縮、高専祭については学生と教職員のみで行う予定です。その他の行事も大きな変更があると思います。本当に憎たらしいコロナですが「ウィズコロナ」のもとに、少しでも学生の活躍の場が出来ることを願っています。

寮務主事
清武　博文

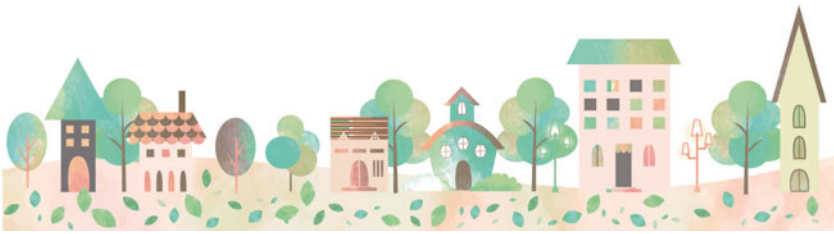
４月より寮務主事を拝命致しました電気電子工学科の清武博文です。

どうぞ宜しくお願い致します。

さて、本年度の寮の体制について説明します。寮務主事補は、新たに小関康平（一般文系、４.５寮担当）、井上優良（情報、２寮担当）が加わり、朝美淑子（一般文系、１寮担当）、中野壽彦（機械、３寮担当）、石川誠司（電気電子、４寮担当）、トメック（一般文系、５寮担当）が昨年度からの継続です。専任職員は、昨年度から引き続き後藤敦史係長、糸長美智子です。寮母と学寮指導員は、昨年度から引き続き工藤洋子、橋本伊津美、髙﨑亜希および佐藤満則、尾渡誠一、平山幸生、佐藤秀己です。寮務主事室会議として野口修学生課長、重光厚志学生課長補佐が継続です。また、寮食は、㈱魚国総本社九州支社から提供されています（前述は敬称略）。

４月から新入寮生として、１学年41名、３学年にインドネシアから１名留学生が入寮しました。また、マレーシアから３学年に１名、４学年に１名留学生が入寮予定です。９月１日現在の寮生数は、196名となります。

寮は高専の大きな特徴でありますが、集団生活を送るため、どうしても新型コロナウイルス感染拡大のリスクがつきまといます。これに対して、全室個室化、各寮の玄関および各階・各トイレにアルコール消毒液の設置、食堂の少人数化とパネル設置、風呂の時間差での利用、朝夜の健康調査の実施、個室以外の寮内はマスク着用、門限を早める、などの対策を行っております。また、６月の開寮以降、寮内の各種行事も中止・延期となっており、様々な不便が生じておりますが、今後も学生・教職員一丸となって安心して生活できる明野寮を作り上げたいと考えております。



新任教職員挨拶

一般科文系　**広瀬　裕美子**

国語科の広瀬と申します。長年、大分県立高等学校教諭として働いておりましたが、少しでも研究ができる環境を求めて福岡県の有明高専に転職し、今年度より大分高専に赴任して参りました。

高専は理系の学校ですが、前任校同様、大分高専でも熱心に授業を聞いてくれる方が非常に多く、嬉しい毎日です。また、わたしの雑談にも静かな笑いと不動心をもって傾聴して頂いてありがとうございます。高専生の興味関心は理系分野だけではなく、多岐に渡っていることに日々感動しております。

高校と違って高専はいち早く、自由でよりアカデミックな環境に身を置いて学習することができます。この絶好の機会を、ゲーム等に勤しむのではなく、何か一つでいいので興味あることを見つけて、追究していって貰いたいと思います。お互い有意義な日々が過ごせるように頑張っていきましょう！

都市・環境工学科　**永家　忠司**

８年間勤めた函館高専を離れ、今年度から本校に赴任しました永家です。よろしくお願いします。

コロナ禍の状況で学生の皆さんの顔も名前もよくわからない中の遠隔での授業からのスタートはなかなか厳しいものがありましたが、対面授業で実際に皆さんの反応を伺いながらの授業のほうがやはりやりがいがあるというのが率直な感想です。ただ、普段マスクをしていると一人ひとりの表情が分かりづらいため、まだまだ顔と名前が一致しない人が多くいます。表情以外にも声はコミュニケーションの大事な要素の一つですので、お互いに積極的に声を掛け合いましょう。また、質問でも雑談でもかまいませんので、研究室に気軽に来てください。この状況が一刻も早く改善し、普段どおりの環境での教員活動と大分での生活を過ごせる日を心待ちにしております。

一般科文系　**川野　泰崇**

今年度より一般科文系英語科に着任しました川野です。以前は広島県の附属学校で英語を教えていました。普通科で教える英語とは異なり高専では、ビジネス英語や技能英語のような「目的別英語(English for Specific Purpose)」を扱うため、これまでの経験がそのまま活かせるわけではありませんが、ESP教育はかねてより興味のある領域でしたので、やりがいをもって日々楽しく授業をさせてもらっています。

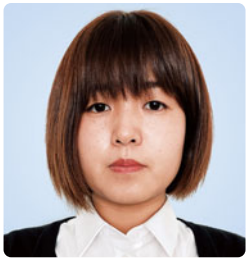
語学の意義は、単に言葉を学ぶことではなく、他言語を通じて自他の文化理解を促され、自身の視野を広げ寛容性を高めるところにあります。苦手意識のある人もいるでしょうが、母語を学ぶのと同じで語学に才能や適性はありません。自分の可能性を信じて進んでいけば必ず上達できます。共に学び、成長が実感できる一年間になるお手伝いができたらと思います。今後ともよろしくお願いします。

一般科文系　**小関　康平**

これまで憲法学を専門としてきており、特に国家論を扱ってきました。なかでも、国家と憲法典との関係がいかにあるべきかなどについて、いくつかの論文を執筆して、『前憲法的国家の法理論』という研究単著にまとめました。

他方、教育活動としては、東京界隈の大学等において、教職課程の憲法の科目を中心に担当してきました。大分高専では、政経等の公民科系科目及び法学概説などを担当することになっています。

高専着任にあたり、特に低学年世代に対して講義を行うことに新鮮味と、程好い緊張感をおぼえています。とはいえ、高専は、大学と同様に高等教育研究機関であって、そこでの学び手は〈生徒〉ではなく〈学生〉である点に変わりはありません。したがって学生諸君には、日頃の講義等においても自律的な姿勢で学習に取り組まれるであろうことを大いに期待しています。



情報工学科　**劉　怡**

皆さん、はじめまして。令和２年４月より、情報工学科に助教として着任いたしました劉 怡です。

現在では、３年生のコンピュータネットワークやプログラミング応用Ⅰの講義を担当しております。これまでの非常勤講師の経験から、学生が創造する喜びや、物事を理解する楽しさを知ることで、学

新任教職員挨拶

生自ら自主的に思考するように促したい。

初めは、戸惑いや不安などありましたが、大分高専の学生さんや教職員のみなさんのおかげで少しずつ仕事に慣れてきました。高専の先生方とスタッフの方々がひとまとまりとなり、学生への細かな教育されているのだと感じています。

また、高専学生の印象は、毎日明るくて元気に挨拶してくれることです。そして授業中にとても活発であるということです。これから大分高専で勤務できることに感謝をしながら、学生の皆さんの学びに役立てばと願いつつ、微力ですが頑張っていきたいと思います。今後もご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

地域共創テクノセンター　**笠間　俊次**

本年５月１日付けで地域共創テクノセンターに採用となりました笠間俊次です。皆様、どうぞよろしくお願いします。

私は３月に製鉄会社を停年退職し、５月から本校で産学連携業務を担当しています。36年間の企業経験を活かして、本校と地場企業の技術・人財をつなぐ縁結びオジサンを目指して頑張ります。

私の出身地は北九州であり、北九州高専から大学編入を経て就職に至り、以後、還暦まで技術者人生を歩んできました。今思うと、自らの思考骨格は、高専時代に体得した基礎工学に外ならず、今でも恩師の皆様の熱血指導に感謝しています。登山中の学生諸子にもそう実感する日が必ず来ますので、今は高く登って下さい。

将棋界ならば既にヒフミン組ですが、教職スキルはまだ若葉マーク。藤井聡太君のような切れ味鋭い一手を探究していきますので、よろしくお付き合い下さい。

機械工学科　**竹尾　恭平**

初めまして。この度９月１日付で機械工学科に着任しました竹尾恭平と申します。約10年前に本校の専攻科を修了し、この度教員として母校に帰って参りました。勉強した教室を懐かしみ、新しくなっている学生食堂などには驚き、早速、母校での教員生活を楽しんでおります。

学生時代は、野球部に所属しており、専攻科在籍時は学生コーチとして活動しておりました。この度も野球部の顧問を担当することになりましたので、学生達と楽しく身体を動かしたいです。

微力ながら、大分高専の発展に努め、学生達と共に成長していけるように、頑張って行きたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

総務課長　**増田　徹**

本年度４月に総務課長として着任いたしました増田と申します。

前職は佐世保高専学生課で勤務をしておりました。これまで北九州高専、佐世保高専で勤務し、高専勤務は今年で16年目となります。

私の生まれは大分で、今回、地元の高専で仕事をさせていただく機会をいただき大変うれしく思っています。

高専生は日本の産業界での評価も大変高く、本校でも、すばらしい人材が毎年巣立っていっているとお聞きしております。このすばらしい大分高専のために、微力ではございますが尽力してまいります。

総務課課長補佐　**松岡　美由希**

４月１日付けで総務課課長補佐（総務担当）、人事係長も併任しております松岡と申します。

前任は大分大学挾間キャンパスで、安全衛生業務を担当しておりました。

今回、大分高専で勤務するに当たり、仕事はもちろんですが、毎日の通勤経路の渋滞回避にも頭を悩ませている今日この頃です。

高専での勤務は初めてでもあり、いろいろと要領が悪いため、皆様の手を煩わせていると思いますが、自分の出来ることでお役に立てるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

趣味は絵画鑑賞と食べ歩きです。

絵画鑑賞のために旅行の計画を立てることと、旅行先で美味しいものを食べることで、気分転換を図っています。

総務課人事係　**古畑　知美**

４月から総務課人事係に着任いたしました、古畑と申します。

学生時代は工学部で化学を専攻していました。そのため、工学系の専門の学校である、大分高専をとても身近に感じていました。

また、高校･大学は茶道部に所属してい

新任教職員挨拶

ました。お茶と和菓子が大好きで、よく和菓子屋さん巡りをして、抹茶を点てて食べています。おすすめの和菓子屋さんがありましたらぜひ教えてください。目標は、自分で練り切りをつくることです。

仕事面では、まだまだ慣れないことが多く、たくさんご迷惑をおかけするかと思いますが、仕事を一つひとつしっかり学び、少しでも早く覚え、皆様のお役に立てるよう精いっぱい頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

総務課財務係　**田中　明日美**

４月から総務課財務係に着任しました田中と申します。事務職は初めてで最初は不安もありましたが、周りの教職員の皆様のサポートのおかげで少しずつ慣れ、前向きに業務に取り組めています。

学生時代は情報工学を学び､そのまま情報系の職種に就職いたしました。そのため周りに高専出身者が多く､実は親しみのある存在でした。そんな高専で職員として働けることをとても嬉しく思います。

これまで明野方面に来る機会はあまりなく、ドームにサッカーの試合を見に行く位でしたので、ぜひおすすめのお店など教えてもらえると嬉しいです。

皆様のお役に立てるよう精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

学生課教育支援係　**西　佑太**

令和２年４月１日付けで大分高専学生課教育支援係に着任しました西と申します。

これまで学生として様々な形で学校に支えられてきましたが、これからは学校事務として学生を支える立場になります。初めてのことばかりでご迷惑をかけることもあるかと思いますが、１日でも早く大分高専の発展の為に力になれるように日々頑張っていきたいと思います。

また私は、15年間サッカーをしてきました。スポーツから学ぶことはとても多く協調性はもちろん｢人間性の豊かさ｣が身につくと思っております。これらは仕事においてもとても活かせています。ぜひ、スポーツに興味のある方は気軽に話しかけてください。よろしくお願いいたします。

学生課学生支援係　**坂口　美幸**

１月から保健室で看護師として勤務しております坂口です。

始めのうちは戸惑いや不安などがありましたが、周囲の方々にいろいろと助けていただきながら、少しずつ仕事に慣れてきました。

保健室では、学生の皆さんが健やかに学校生活を送れるように、いろんな面からお手伝いができればと思っています。ケガや体調不良の時はもちろん、ちょっとした困りごとなどについても、気軽に話せるような場を皆さんに提供できるよう、日々取り組んでいきたいです。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

総務課企画係　**河野　美幸**

４月より総務課企画係の事務補佐員として勤務しております河野です。

教育の現場で働くのは初めてで、特に今年は学生のいない中での始まりでしたので、寂しさと不安でいっぱいでした。学校が再開され、学生の皆さんの明るい笑い声などが校内に響き、学校に通うという日常の大切さを痛感いたしました。初めてのことばかりでご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一日でも早く仕事を覚え、皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。また、趣味はサッカー観戦と温泉巡りです。気軽にお声を掛けて頂けたらうれしいです。よろしくお願いいたします。

学生課学生支援係　**後藤　みゆき**

令和２年４月１日付けで、学生課学生支援係の事務補佐員として勤務しております後藤です。

高専生の元気にとても救われます。

コロナ禍にて、例年通りとはいかない状況の中で、着任早々不慣れな点も多く、戸惑いを隠せないこともありますが、学生の皆さんの明るい声を聞こえると、不思議とパワーをいただき、｢今日も頑張

新任教職員挨拶

ろう」と新鮮な気持ちで仕事に取り組むことができます。笑顔での対応と、気軽に声をかけていただけるよう、日々努めてまいります。

学生課では、主に就職やクラブ活動に関することを担当させていただいております。至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、一日でも早く、皆様のお役に立てるよう、精一杯尽力いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

機械工学科　**渡邉　正年**

今年の４月に、機械工学科の技術補佐員として着任しました渡邉です。軽部研究室で、わき芽除去用移動ロボットの開発に従事する事になりました。これまでは、医療器具の開発を30数年やってきました。新しい物を創る事ばかりしていました。

ロボットの開発は初めてですが、以前より興味のある分野で、開発の仕事ができることを嬉しく思います。

分野違いのところはありますが、少しでも先生方の助力になりたいと思っています。また、企業OBとして学生達へアドバイスしていきたいと思っています。

皆様、よろしくお願いいたします。

電気電子工学科　**宮﨑　皓士**

電気電子工学科で技術補佐員として採用されております。宮﨑です。３、４年生の機器実験補助と菊芽摘み移動ロボットを担当しております。2019年まで大分高専専攻科に在籍し、名古屋工業大学大学院へ進学しておりましたが、今年３月で退学し、母校で勤務することとなりました。学生時代は主に誘導電動機のベクトル制御の研究をおこなっていた縁で、モータ実験の補助を行っております。在学時に行っていたSA等で私のことを知っている学生は少々思うところがあるかもしれませんが、進路や日々の勉強についてなど気軽に話かけてくれれば幸いです。至らない点も多いと思いますが、何卒よろしくお願いします。

情報工学科　**長野　真佐子**

令和２年５月より、情報工学科に技術補佐員として着任いたしました長野です。

産学官による３年間の研究開発プロジェクトを国が助成し、企業と連携しシステムの開発をしています。

嶋田先生の元、微力ですがシステム開発のお手伝いをさせていただいております。

趣味は観葉植物や植木の水やりです。

どうぞ、宜しくお願いいたします。

学生課教育支援係　**河野　唯**

７月１日から学生課教育支援係の事務補佐員として勤務しております、河野と申します。

初めは、慣れないことばかりで不安もありましたが、教職員の皆さんに教えていただきながら、日々仕事に取り組んでおります。

わたしは学校で働くことが夢だったので、夢が叶い、毎日幸せを感じながら勤務しています。すれ違う学生の皆さんの元気な挨拶や楽しそうな笑顔を見て、元気をもらいながら、仕事をさせていただいております。

不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、早く皆様のお役に立てるよう精一杯励んでまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

総務課財務係　**室谷　真由美**

７月１日より、総務課財務係で事務補佐員として勤務しております室谷と申します。

私は今まで一般企業で経理事務等の仕事をしておりました。学校での事務は初めてで今までの仕事とは違うことも多くわからないことばかりで、覚えることもたくさんありますが、早く仕事に慣れていければと思い、日々仕事に取り組んでおります。

４月に大分に引っ越してきました。休日は家族と時々久住の山に登ったりドライブしたり、大分での生活を満喫しています。

慣れないことばかりで、皆様にはご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、みなさんのお役に立てるよう精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

令和2年度 オープンキャンパス

オープンキャンパス実行委員会
委員長　一宮　一夫

令和２年度大分高専オープンキャンパスが９月５日㈯に開催されました。

オープンキャンパスは、本校への進学を考えている中学生とその保護者、そして周辺地域の方々に本校の施設を公開し、本校についてより深く理解していただくことを目的に、毎年７月頃に開催しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、中学３年生を対象に事前予約制にして午前と午後のグループに分けて実施しました。当日は、中学生336名、保護者等185名の合計521名にご参加いただき、入試問題解説、入試・学校説明会、専門学科４学科を見学するキャンパスツアーを実施しました。

アンケートの実施結果では、「実際に学校の設備を見れてよかった」、「校内の雰囲気が良く先生や先輩方がとても優しく楽しそうだった」、「４学科全コースの紹介があり偏りが出ずよかった」、「このご時世の中、オープンキャンパスを開催してくださりありがとうございます」など満足していただいた様子が伺えました。

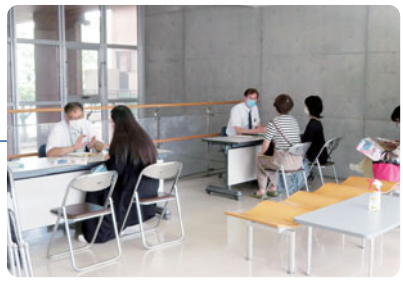
オープンキャンパスをきっかけに本校を志願する小中学生も多いことから、今後も充実したイベントとなるよう学校を挙げて取り組んでいきたいと思います。

学科等	テーマ
機械工学科	機械工学科のロボット展示
	材料試験の実演
	鋳造の実演
電気電子工学科	ロボット作品と実験装置紹介
	卒研・特研内容展示
	学生のアイディア作品
情報工学科	3Dモデリング映像展示
	学生製作ゲーム展示
	公開生放送
都市・環境工学科	最新の測量機器の展示／ため池越流シミュレーション
	コンクリート破壊実験
	水質浄化実験

受付前の検温

入試問題解説

校長あいさつ



高専なんでも相談コーナー

機械工学科 オープンキャンパス

鋳造の実演

例年、来場者に鋳造で携帯ストラップ製作を体験してもらっていました。しかし、今年は密を防ぐため、学生による鋳造実演のみとし、クイズで記念品を正解者に配布する形をとりました。記念品を作るために学生がマシニングセンタで金型を製作し、機械工学科の魅力を伝えるためにプレゼン準備にも時間をかけました。その甲斐もあり、来場者に機械工学科の魅力を伝えられたのではと考えています。協力してくれた皆さん、ありがとうございました。

材料試験の実演

鉄の熱処理実験では、熱処理の種類によって鉄の強度が変化する様子を実際に折り曲げて、体験してもらいました。ボルトの引張破断試験では、徐々にボルトがくびれていき、破断時に発生する大きな音に多くの驚きの声が上がりました。例年と異なるオープンキャンパスとなりましたが、学生達の上手なプレゼンもあり、来場者に機械工学科の素晴らしさを伝えることができたと思います。皆さん、お疲れ様でした。

機械工学科のロボット展示

本年度は、参加者のみなさんにロボットの操作やロボットバトルでの競技などを実施することができませんでした。そこで企業から寄贈された産業用ロボットを用いたダンスの実演、５年生の授業（エンジニアリングデザイン）で設計・製作したロボットの実演・解説等を行いました。学科紹介ビデオの紹介から始まり、一連の流れを工夫した内容になりました。担当学生の皆さん、お疲れさまでした。好評でした。

電気電子工学科 オープンキャンパス

電気電子工学科では、３会場で、❶ロボット作品と実験装置紹介、❷卒研・特研内容展示、❸学生のアイディア作品の展示と実演がありました。

ロボット作品と実験装置紹介

５年生にもなると、自分達で電子回路を設計し作品を作ることができます。工夫を凝らして自分たちの思いを形にしていきます。ここでは、ホログラフィーを使った作品、カメラ映像を使って迷路をクリアする遠隔操作ロボットなどの紹介がありました。また、作品を製作するときに使用する実験装置の紹介がありました。

卒研・特研内容展示

高学年の学生達が日々取り組んでいる研究についてのパネル展示と実機を使ってのデモがありました。ここでは、高電圧パルスパワーによるストリーマー放電発生実験の実演、地中レーダ画像を用いた埋設物のAI認識に関する研究の説明がありました。

学生のアイディア作品

プログラミングが可能なレゴブロックを使って、電気科の低学年生がグループで製作した力作を展示しました。また、電気科で行うプログラミングについての説明がありました。

情報工学科 オープンキャンパス

学生制作ゲーム展示

本科２年生と専攻科生が授業で作成したオリジナルゲームをいくつか展示し、ゲームを作成する授業がある、２年生までに高いレベルのプログラミング技術を得ることができるということを知っていただきました。普段、なにげなくやっているゲームがどのようなコンピュータ言語で作成されているかを知っていただきました。

3Dモデリング映像展示

対象物との距離が測れる深度カメラを３台使って、撮影した３枚の立体画像を貼り合わせて作成した３Dモデル映像を展示しました。映像は視点をぐるりと移動させることにより立体モデルであることを感じ取っていただけたはずです。撮影に協力していただいた参加者の皆様は、最初は普段通りに直立している方々が多かったのですが、慣れてくると手を突き出したり思い思いのポーズを取ったりして、映し出される３D映像を楽しんでいただけたようでした。

公開生放送

情報工学科棟２階の映像メディアスタジオから、YouTubeの番組を生放送しました。番組の内容は、情報工学科の学生によるトーク、クイズ、ゲーム、研究室紹介などです（番組は現在もYouTubeでご覧いただけます）。当日ご来場のお客様には、放送中のスタジオの様子を見学していただきました。

都市・環境工学科 オープンキャンパス

都市・環境工学科では、

1）最新の測量機器の展示
2）ため池越流シミュレーション
3）コンクリート破壊実験
4）水質浄化実験

についての説明・展示を行いました。

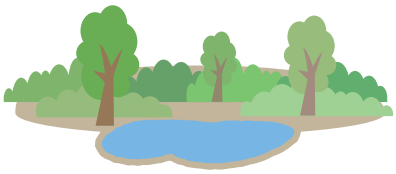
1）最新の測量機器の展示では、ボタン一つで正確な距離が求められるトータルステーションを展示し、学生による操作の実演を行いました。

2）ため池の越流シミュレーションでは、ため池の水位計測と合わせて、大分の水害への防災・減災の取り組みについて紹介しました。

3）コンクリートの破壊実験では、コンクリートの圧縮試験と鉄筋の引張試験の動画を用いてコンクリートと鉄筋の強度について解説しました。

4）水質浄化実験では、水の浄化の仕組みを解説し、生態系のバランスが壊れた際の水質汚染の様子を観察しました。また、地球温暖化緩和策としての海中での光合成領域拡大によるCO_2の吸収促進の研究紹介を行いました。

雨天にも関わらず多くの参加者（生徒・保護者）は、先生達の説明に対して熱心に、また興味深そうに、うなずきながら話に聞き入っていました。



学年通信　1・2学年クラス通信

拝啓 １Mの皆さんへ ～2020.夏～

１M担任　広瀬　裕美子

拝啓　盛夏の候、１Mの皆さんにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか？そちらは10月ですね。こちらは現在７月です。近況としては、皆さんの多くが現社の試験で大打撃を受けていらっしゃいます。さて、入学式以降、６月の対面授業でやっと皆さんに再会できました。学校にも慣れて毎日元気に登校されている姿を拝見しながら、ひとまず順調に高専生活をスタートすることができたかなと安心しています。

これから長い高専生活を送る中で一つお願いがあります。「自主自律」の確立です。試験の点数も提出物の遅れも今まではその都度、指摘があったかもしれません。ですが、高専入学を機に指示待ちは脱して下さい。「今、自分は何をすべきなのか」を常に自覚しておく。これが高専でのひいては社会に出てからの礎になってきます。以上のことを念頭に置いて、今後も素直で明るく元気のいい皆さんでありますように。

では季節柄、ご自愛下さい。　敬具

自律した高専生に

１E担任　福村　浩亨

「自律」：自分で自分の行いを規制すること。外部からの力にしばられないで、自分の立てた規範に従って行動すること。（日本国語大辞典）と説明されています。皆さんは、そのような行動ができていますか。高専に入学し中学校とはガラッと変わった学校生活だと思います。課題がでないから勉強しなくてもいい、今はスマホゲームをして後から勉強しようとなっていませんか。「今」やるべきことはなんでしょうか。学校生活も少し慣れ、余裕が出てきたと思います。５年間で自分が何をなすべきか、どういう自分になりたいかを考えてみてください。きっと、５年後、とても充実した学校生活だった！と思い返すことができると思います。

皆さんの高専ライフが充実したものとなるように一緒に頑張っていきましょう。

続きは保護者会で

１S担任　東木　雅彦

前期の保護者会では、通常なら行われるはずのクラス懇談会が出来ませんでした。そこで今回の通信を通じて、クラスの現状を話させていただきたいと思います。

まず、なんといっても授業態度が非常に良く、朝のショートホームルームのときもそうなのですが、授業中一生懸命に話を聞いてくれます。こちらからの問いかけに対する反応も良いです。もちろん、私語をする学生は全くいません。「今日も皆授業に集中できていた」といった内容が、毎日の週番日誌に頻繁に書かれています。

週番日誌を見るとクラスの１日の様子がわかりますので、後期の保護者会の日に是非紹介させていただきたいと思います。もっとお話ししたい事はたくさんあるのですが、この続きは後期の保護者会でお話し致します。

不思議な新年度

１C担任　田中　美穂

今年度、５回目の１年生の担任をすることになりましたが、今までにない新年度となりました。もちろん新型コロナによるパンデミックのためです。

４月３日の入学式で、30分ほどのHRをしただけで休校となりました。その間、皆さんとは、電話やメール、チャットでやり取りをしていました。一人一人と顔を合わせたことがないまま、とても不思議な感覚を持って、こういったやり取りをしていました。

６月に対面授業が始まってからも、マスク着用で顔の半分は見えません。未だに不思議な感覚を持ちつつ、担任として皆さんと接しています。

個人的には、今回のパンデミックも人類が自然や環境を破壊してきた報いだと考えてしまうので、今の世界や日本に対して暗澹たる気持ちになることがあります。しかし、明るく元気がよい皆さんと毎日接することで、私自身、とても救われています。感謝してます。

問題の見極め

２M担任　稲垣　歩

オンライン授業、新型コロナ、豪雨、灼熱の日々と非日常的であった前期。みなさんは納得のいく過ごし方ができましたか？

今年は自粛期間中に手にした「ISSUE DRIVEN」という本を紹介します。早速ですが要約すると、「生産性の高い人」は「ひとつのことをやるスピードが速い」わけではなく、「何に答えを出すべきか」にブレることなく活動に取り組むことができている。「アウトプットとして何を生み出すことに意味があるのか」を考える力が必要で、その考える力を身につけるためには鍛錬と経験が必要だということでした。

みなさんは頭を使って日々考えていますか。ほんとにそうなのかなぁ？と疑問を持つ習慣をつけ、答えのない問題を考えるようにしましょう。みなさんが高専生活を通して様々な経験を積み、成長していくことを願っています。

学問は爆発だ！

２E担任　北川　友美子

皆さんには、１年次に数学の授業で会う機会があり、親しみのあるクラスでしたが、担任としては今年度が初めてですね。２Eの皆さんは、とても勉強熱心で、明るくユーモアにも溢れ、好奇心旺盛で将来が楽しみです。

これから学問に勤しむ中で大切にして欲しいことがあります。それは、危険でもマイナスの方向に敢えて進むということです。分からないこと、出来ないこと、そういうものに命を懸けて欲しいのです。端的に言えば、人類は鳥のように翼を持たないし、豹のように速く走れない。そのことが人にパッションを抱かせ、のちに飛行機や新幹線のような素晴らしい科学技術の発展をもたらしました。分からない、出来ないことは悪いことではなく、絶好のチャンスです。是非とも「マイナス」を抱き、共に魂を燃やしましょう！

学年通信　2・3学年クラス通信

「絆」は自由を束縛する?!

２Ｓ担任　二宮　純子

現在、「絆（きずな）」は、人と人の心のつながりや、信頼関係を意味していますが、昔は「（絆）ほだし」と読まれて、動物をつなぎとめる綱や、自由を束縛するものという意味があったそうです。

互いに離れないようにつなぎとめる綱が家族や恋人、友達との心身の結びつきを表し、その絆で結ばれた者どうしには断ち難いつながりが生まれ、互いの自由を束縛することもある。情に絆（ほだ）されるのも束縛の一種?!

今年度、新型コロナウイルス感染症の影響による休校や大雨災害で被害に遭いました。私は皆さんの安否確認をすると安堵しましたが、学校からの連絡を面倒くさいなぁ、と思った人もいるかもしれません。学校の連絡は私たちの「絆」の一つと思って…今後も連絡の返信をよろしくお願いします！

基礎固め

２Ｃ担任　東野　誠

前年度の名木野先生から引き継いで、２Ｃ担任になりました東野と申します。どうぞ宜しくお願いします。本年度は、コロナウイルス感染拡大の影響により授業開始が遅れ、５月から遠隔授業でのスタートとなりました。慣れない環境で戸惑い、またご苦労された人も居られたのではと拝察します。６月からようやく対面授業となり、忙しくしている間に前期が終了し、２年次も折り返し点に差し掛かりました。高専の５年間は、一般の高校に比べて長いですが、私達の長い人生から考えれば、僅かな時間で有り、今後の長い人生に向けてしっかりと基礎を固めてゆく時期ともいえます。基礎を固めることを、種蒔きに例えますと、良い地に蒔かれた種は30倍、60倍、100倍の実を結ぶといいます。みなさんがしっかりと種を蒔き、それらが豊かに実を結ぶことを願っています。

３Ｍガンバレ！

３Ｍ担任　大庭　恵一

新型コロナウィルスの感染拡大により、世界中の人がかつて経験したことのない生活環境を強いられています。

私は、この状況をチャンスだと考え、新しいことにチャレンジしてほしいと３Ｍのみんなにも訴えてきました。しかし、私ごときの話でみんなの不安を払拭することなど到底できるはずもなく、逆にみんなの不安をあおってしまったような気さえしています。

現代は情報化社会ゆえに、不確かな情報で世の人々を惑わしてしまっています。各人のとらえ方によっては、今やっていることは全く意味のないことのように思える情報に触れることもあるかもしれません。

しかし、日々の授業等で感化される知的好奇心や、もっと学びたいという意欲は、みんなを輝かせてくれます。

私は、３Ｍのみんなを３年間担任として見てきました。どんな状況でも明るい３Ｍのみんなは、このコロナ禍でも一緒に助け合って乗り切っていけるはずです！　ガンバレ！

oxymoronに見られる「自由」とは

３Ｅ担任　川野　泰崇

“oxymoron”は「矛盾語法」と呼ばれ、相反する意味を持つ二つの単語を組み合わせて作り出す表現方法です。例えば、American English（アメリカ英語）やliquid gas（液体ガス）などが挙げられます。実はこのoxymoronですがみなさんの身近なところにも存在します。それは、「自由」という言葉です。

高専生の魅力の一つは、自由を謳歌できる点です。しかし「自由」の背後には「不自由」が常に隠れています。

みなさんは、「現在（いま）」という時間をどのように過ごしていますか。楽しさばかりを追求し自由奔放に過ごしていると、将来進路選択をする際に「不自由さ」を感じることになるでしょう。逆に、限りある時間を費やして自己研鑽に励めば、今は不自由に感じるかもしれませんが、その後の将来で自由を謳歌できることでしょう。高専生活も折り返し地点。「自由」とは何か、今一度考えてみるのも良いかもしれません。

世の中は理不尽

３Ｓ担任　石川　秀大

高校２年の秋、僕たちの学年はコーチの指導に納得がいかず、練習をボイコットしていた。コーチへの謝罪を要求する部長に対して、僕は「明らかにコーチが悪いのに謝罪する意味が分からん」と頑なに拒否していた。しばらくして新田監督から体育教官室に呼び出され、そのとき言われた言葉。「世の中は理不尽だ。俺もおかしいと思うことはたくさんある。しかし、そうでないと成り立たないこともたくさんある。今のお前には理解できんかもしれんが、おかしいと思ってもやらにゃいけんこともある。」高校３年生は今年、おそらく人生で最大の理不尽を受けた。この理不尽をどう受け止めて今後の人生を歩むかが大事になる。

ちなみに僕は理不尽耐性がないのか、いまだに文句ばっかり言っている始末…。

ヘンカ、テキオウ、シンカ

３Ｃ担任　名木野　晴暢

早いもので皆さんが高専に入学して三年目を迎えました。二年前は新入生だった皆さんの副担任でしたが、今年度は担任です。再び、皆さんの成長を一番近くで見る機会に恵まれました。

さて、今年度は皆さんにとって「二年間慣れ親しんだ池田先生から担任が変更」、「新しい生活様式に沿った高専生活」など、大きな変化が重なっていると感じています。

年度初めには「COVID-19に有効な治療薬ができ、元の生活に戻るまでの辛抱」と声を掛け続けてきました。しかし、その後、新しい教育方法を実践してきた我々は、必ずしも元の学校生活に戻す必要はありませんね。元の生活に戻したら「退化（後退）」です。

何が正解か分からない中で、皆さんは現状に適応するために変化しながら少しずつ進化しています。固定観念に囚われず、時代の「ヘンカ」に対応した更なる「シンカ」を期待しています。

学年通信　４学年クラス通信

「柔軟な私たち」になろう

４M担任　軽部　周

今年度は新型コロナウイルスの影響で４月の授業開始が延期、５月はリモート授業。６月からやっと対面授業ができました。しかし、球技大会や研修旅行は中止、苦労して履歴書を書いた県外インターンシップも全面中止、県内インターンシップも殆どが大型台風の影響を受けて短縮、という憂き目にあいました。なぜこんなに予定通り進まないのか？と、私自身、焦りといら立ちを感じました。しかし、こんな時こそ、突然の予定変更を受け入れることのできる「心の余裕」を持つべきではないでしょうか。これからも今までの常識が通用しないことが増えるでしょうが、変わりゆく世界に焦らず怒らず順応できる「柔軟な私たち」になろうではありませんか。

そのためには、これからすべきことを把握しておくことが重要です。４年後期ですることは、進路選択のための企業（大学）研究、SPI試験やTOEICの準備、５年に進級するための計画および勉強量の確保などです。最初はやることが多くて目を背けたくなるかもしれませんが、「次に何が来るか」を知ることで心の準備ができ、余裕が生まれ、予定変更を受け入れる寛容さが身に付くと思います。皆でこの変革の時代を乗り切りましょう！

進路選択

４E担任　本田　久平

いきなり４月から休校、５月からオンライン授業になり４Eのみなさんとは、最初ほとんど顔も合わせずにきましたので、個々の状況や様子がなかなか掴めませんでしたが、６月に対面授業が始まり、また校外実習の準備などを通して、ようやく皆さんのことを徐々に掴んでいっている感じです。

４年生は高学年として活躍する時期でもあり、自身の進路を選択する時期でもあります。しかし、コロナ禍により皆さんの活動が制限されてしまうという非常に厳しい状況となってしまいました。このような厳しい状況でも各自で取り組めることはあるはずです。企業や大学のホームページで情報を得たり、専門分野、英語、SPI試験の勉強をしたりすることはできます。自分のことを見つめ直すこともできると思います。できることから、ほんの少しでも動いてみましょう。

今のうちから、進路先の情報収集や自己分析をしっかり行って、悔いのない進路選択と就職試験や編入学試験等の対策をしてもらえればと願っています。

違った視点で見てみよう

４S担任　西村　俊二

改めて言うまでもないことでも、感じたことを言葉にするのは大事ですし、ゆとりある日々を送るためにも毎日会うクラスメイトに紙の手紙を書くことに挑戦してみてはどうでしょうか。

もちろん、現在ではスマートフォンや携帯電話でのテキストチャットでやり取りすることが多いと思いますが、たいていのことにはやってみると面白い所があります。ここで挙げた手紙にこだわらず、何でも良いのです。勉強とは全く関係がないとも思われることを決して最初から無駄だと決めず、やや変人だとか他人からどうおもわれたって良いではありませんか。なんだってチャレンジしてみて、そう当たってくだけろです。この文章だって、少しだけ違った視点から読んでみると、隠された意味を読み取ることができるという一例となっているかもしれません。

特別な年に　４年になった君たちに

４C担任　工藤　宗治

なんとまあ滅茶苦茶な年になったものだ。2020年２月から全てといって良いこれまでの学校生活が、僅か100nm（10－9m）のコロナウィルス（covid－19）でいとも簡単に崩れ落ち、（何かと）息苦しい生活になった。

今年の11月にはアメリカ大統領選挙があり、選挙の結果次第ではまた世界情勢が大きく変わることになる。

先（将来展望）が見えにくい時に社会に出ていく（行かざるを得ない）皆さんに、一つ紹介したい冊子がある。

―『2020年６月30日にまたここで会おう　瀧本哲史伝説の東大講義』（星海社新書）―

この本は、2019年に47歳で夭折した投資家、教育者の瀧本哲史氏が、2012年に東京大学で講演した内容を書き起こしたものである。この中で瀧本氏は、「君たちは、自分の力で、世の中を変えていけ！　僕は日本の未来に期待している。支援は惜しまない」と文中から読者（若者）に檄を飛ばしている。

是非手に取って読んでほしい。そうすれば彼が題名にもある「2020年６月30日にまたここで会おう」の意味が分かる筈だ。

この不透明な状況に向かっていく君たちの指針の一つになるに違いない。

学年通信　５学年クラス通信

経験のないことばかり

５Ｍ担任　薬師寺　輝敏

私が担任をしているこのクラスは、とても団結力が強く、乗りの良いクラスです。４Ｍの体育祭では、大縄跳び一位、クラス対抗リレー一位、総合クラス一位で機械工学科19連覇の原動力となりました。この総合優勝の賞状は例年５年生のクラスに飾られるのですが、この年は４年生のクラスに掲示されることになりました。今年は前期始めがリモート授業で、高専最後の球技大会が中止となり、５Ｍの雄姿が見られなかったことがとても悔やまれます。体育祭はどんな形でも行いたいと願うのも、我が５Ｍが一番強いと思います。就職や進学試験が例年とは全く違う形で行われる中でも、５Ｍの学生はとてもよく対応してくれました。４月21日に最初のマッチングWEB面談合格者が出てから、最終ランナーは７月29日にゴールしました。５年担任として一番の大仕事を終えることができてひと安心しています。機械工学科ではここ５年間５年生の留年生を一人も出していないので、この記録を途絶えさせないためにも、もうひと頑張りするつもりです。

社会へはばたく準備を

５Ｅ担任　山口　貴之

今年はコロナ禍の騒動もあり、新年度の開始時には遠隔授業が行われ、就職・進学活動に大きく影響が出てしまいました。何もかもが初めての状況下で、就職・進学が思うように行かず、鬱憤が溜まった人も多かったのではないかと思います。そんな中でも進路を決めた人、また現在進行形で苦戦している人、それぞれ頑張りどころを抱えているでしょう、卒業までのあと数か月、頑張って下さい。

後期のイベントも規模縮小や中止などと変更を余儀なくされている状況下で、学生生活の思い出作りもままならないかと思います。ただ、思い出はイベントだけでなく、日常の学生生活の中にこそ多分にあるのではないかと考えています。今のこのクラスの交友関係は皆さんの一生の財産と成り得ます。残された日々を大切に過ごし、それと同時に自身の将来を見据えた学習に励んで貰えたら幸いです。

「変わらないもの」

５Ｓ担任　十時　優介

皆さんの担任になって３年目。長い間同じ担任っていうのもいい加減飽きてしまったのでは、と思いますがそれでもSHRなどにしっかり付き合ってくれる皆さんに感謝している今日この頃です。この原稿を書いている時期はちょうど前期期末試験も終わり皆さんに夏休みを告げた頃になっています、お手元に届くのは大分高専の３大イベントも過ぎ卒業研究の中間発表も終わっている頃かと思います。時期を勘違いしていたら申し訳ありません。

中間発表では普段指導を受けている先生以外にも学科の先生からの指摘を受けることで自分の研究について多角的に見直す機会を得ることができたりクラスメイトがどのような研究を行っているか触れることで、自分の研究以外について知見を広めたり、モチベーションの向上につながったのではないでしょうか。

今年度は、昨年度末から世界的に蔓延しているコロナウイルスによって皆さんの進路選択だけでなく授業の形態や普段の生活についても、新たな社会様式の提案と普及が進んでおり、昨年度の今頃とは事情が激変しています。しかしながら研究活動と言う本質は社会情勢がどのような状態になっても原則的には変わりません。高専生活最後の一年間が社会に振り回されることになり大変だとは思いますが、残り半年、より良い高専生活を過ごせるように一緒に頑張っていきましょう。

時代の変化を読む

５Ｃ担任　帆秋　利洋

今の時代は、テレビを見ない若者が多いと聴きます。ニュースなどの情報は、スマホを使ってたまにYouTubeやSNSサイトから得ているそうです。そのような生活環境で育っているため、最近の社会情勢や身近に起きている事象すら知らずに生活している学生も少なくはないようです。

新型コロナウイルス騒動が始まって既に半年以上が経過しました。外出規制が引かれ、テレワークやリモート授業といったこれまでに経験のない新たな生活スタイルが導入されるようになりました。一方で、地球温暖化の影響を受けて、各地で異常気象による災害が年々多発しています。

５年生の皆さんは、進路もほぼ決まり、来春には就職する者、進学する者と各々が様々な岐路に立たされます。その中で、我々人類がこれまでに経験したことの無い事が世界中で次々と生じており、世界は大きく変化しようとしています。

皆さんには、これから卒業を迎えるまでの半年間に今を取り巻く社会情勢をいち早く察知して、その時代に適応しつつ将来を見据えて、しっかりと着実に前進していくための準備をして欲しいと思います。

専攻科便り

変化に適応するエンジニアを目指して

専攻科長　嶋田　浩和

専攻科長の嶋田です。本年もよろしくおねがいします。

本年度の専攻科の状況は次の通りです。昨年度はMC専攻16名、ES専攻12名全員が学士（工学）の称号を修得し修了しました。またMC専攻15名、ES専攻12名の計27名が入学し、２年生MC専攻15名ES専攻７名と合わせて総数49名となりました。

本年度は、COVID19の対応のため学校として初めて家庭から授業に参加するONLINE授業スタイルで始まり、短縮授した対面での授業を再開することができました。時間の感覚、季節の感覚などが例年と違っているために戸惑っている学生諸君もいるかと思います。学生相談室をはじめ、専攻科スタッフも皆さんの不安や悩みなど少しでも解消をお手伝いしたいと思っています。何なりと相談して、自分の目標達成に向かい頑張りましょう。

現在社会は大きな変革の時期を迎えているように感じます。経済的には米中の摩擦、生活はリモート勤務が当たり前になり生活スタイルが大きく変化しています。宅配による食事の一般化に代表されるように業務形態の適応できるものがあります。社会の変化に適応で淘汰が行われているようにも思えます。これらの適応の裏に技術が必ず絡んでいます。あなた方はこれらの社会変化に適応する、また新しい生活スタイルを作るエンジニアの卵です。このことを肝に銘じ、学業に精進されることと思います。現に２年生の皆さんは、その目標が目前となり修了に向け自分のなすべきことを見定めて着実に実行しているところでしょう。また、１年生は、入学して半年が経過し本科との違いを感じ戸惑いながらも自分の選んだ学生生活を満喫していることと思います。今後は自分の将来像を描き、今後その達成に向け計画を立て実行していくことになります。初心を忘れずしっかりと進んでください。

機械・環境システム工学専攻

MC専攻主任　前　稔文

本年度からMC専攻主任になりました。その矢先に、新型コロナウィルス感染症が広まったことにより、授業に加えて就職や進学などの日程に影響が出てしまい、不安や戸惑いもあったことと思います。それでも、就職希望者は内々定をいただくことができ、８月の中間発表会も無事に終えることができました。日々の生活では、放課後に教室の消毒清掃を行っていますが、当番が清掃できない場合でも、クラスメイトが協力していますし、毎日、Teamsへの返事もしてくれていますね。そのようなみなさんのことを、逞しく、また温かく感じます。

さて、これからは専攻科修了に向けて、特別研究をまとめ、各種修了要件をクリアしていかなければなりません。残りの半年、一緒に頑張りましょう。

電気電子情報工学専攻

ＥＳ専攻主任　徳尾　健司

電気電子情報工学専攻２年は７名のクラスで、うち就職希望者が４名、大学院への進学希望者が３名でした。就職については６月初旬までに希望者全員が内々定をいただき、進学については（入試がこれからという志望先もありますが）現在までのところ順調に合格をいただいております。今年度は新型コロナウィルス感染症対策の関係で採用や入試のスケジュールが若干変動し、面接や試験はほとんどの場合リモート（Web）で実施されました。これまでと勝手が違って戸惑うこともあったと思いますが、持ち前の対応力を発揮して無事乗り切ることができたのは何よりです。８／１には特別研究Ⅱの中間発表会が実施され、各々の進捗状況を報告しました。今後は専攻科の修了および学位の取得に向けて、「学修総まとめ科目」としての研究の仕上げに取り組んでもらうことになります。

専攻科に入学して

ＭＣ専攻１年　新宮　百恵

私は都市・環境工学科から専攻科に入学しました。専攻科ではこれまで学んでいた都市環境工学の内容をより深く学べるだけでなく機械工学の内容も学べます。また専攻科では、本科に比べて他学科との交流が増えます。例えば一年次にあるプロジェクト実験では、最初に与えられた課題を各学科の学生がチームを組んで、本科で学んできた知識を活かし課題に挑みます。各々が持つ知識を出し合い、様々な制約条件下の中で実現可能性を考慮して、自らにできることを考え行動します。講義の中で自分が持つ専門知識を他学科の友人に教えたり、時には他学科の知識を教えてもらったりしながら新しい見解を得るという他学科との交流は自分にとって大きな刺激になります。

専攻科で過ごす２年間は本科の５年間に比べて短い期間ですが、限られた時間の中で自分自身と向き合い、成長することが出来る重要な期間でもあります。その時間を将来の自分が後悔してしまわないよう、大切に使っていこうと思います。

専攻科に入学して

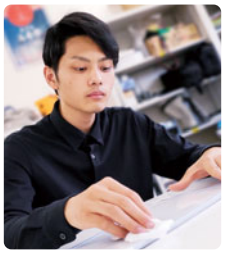
ＥＳ専攻１年　川野　裕大

私は電気電子工学科から専攻科へ入学しました。専攻科ではこれまで学習してきた電気電子工学の分野に加え、情報工学の分野も深く学習することができます。専攻科では他学科の学生と協力して一つの作品を作り、発表を行うプロジェクト実験や、卒業研究で学んだことをさらに深く研究し、学会発表を行う特別研究など、本科では経験できないことに挑戦する機会が多く存在します。また、授業科目が本科と比べると少ないため自分の時間を作りやすく、資格試験や自分の興味があることについて学習することができます。

専攻科で過ごす２年間はとても短いですが、本科ではできなかったことに積極的にチャレンジし、日々計画を立てながら将来の目標に向かって成長できる期間にしていきたいと思います。

学生会便り

学生会長挨拶



学生会長
５Ｃ
佐藤　春輝

今までに読んだ本の中で「FACTFULNESS（ハンス・ロスリング著）」という300万部越えの世界的ベストセラーの本があります。2018年に出版されたものであり、大まかな内容として“極端な情報に踊らされず、正しいデータに目を向けよう”というものです。本書中にこんな質問があります。「世界の１歳児の中で、なんらかの病気に対して予防接種を受けている子どもはどのくらいいるでしょう」、正解は80％です。多くの人が「思っていたより高かった」と感じると思います。このようにデータを正しく見るとこれまでの常識が大きく変わるような事実も世の中には数多く存在します。

現状況も例外でなく、最も重要視されている「正しい情報は“なんとなく聞く”ではなく、自らデータを“読みとく”」という行動を多くの人は実践できていない気がします。現代社会において、頻繁に見受けられる「危機的状況のみを発信し、大衆を扇動する情報」や「根拠なき政治批判」等も鵜呑みにするのではなく、常に自分は無知であると知り、統計を正しく見る・情報を精査するといった行動を“日常”にしていく良い機会にしませんか。過酷な状況に直面した時は、そこで何を得るか考えて楽しもう、人生は冒険や！

副会長挨拶

副会長
４Ｓ
小手川　康太

コロナウイルスの影響でおよそ100日の休校ののち、ようやく始まった今年度、僕はこれまでに体験したことのない暇に襲われひたすらオムライスを作っていました。僕は大変な時に一体何をしているのでしょうか。

さて、もうすぐ高専祭が始まります。

もう、少しずつ出展店の準備をしているクラスもあるのではないでしょうか。今年度はコロナウイルスの影響もあり、一部出展店の規制や入場規制、徹底された感染対策のもと行われるため、昨年度のような高専祭を行うことは難しいかもしれません。しかし、それを理由に妥協したくありませんし、楽しい高専祭にしたいという思いは我々も同じです。ですので、こういった状況下でも、皆さんに楽しんでいただけるような企画も現在考えています。

去年通りの高専祭にはなりませんが皆さんに窮屈な思いは絶対にさせません。「そうそう！　こんな高専祭がしたかった！」そう思っていただけるような高専祭が作れるように頑張りますので温かい目で見守っていてください。

学生会総会

会計・監査局長
５Ｅ
林　李駆

こんにちは。会計監査局長の林李駆です。今年度の学生会総会を行うにあたって各部活動の方々や高専祭実行委員、音楽祭実行委員、体育局、総務局と慎重に話し合って学生会予算を決めました。今年度は新型コロナウイスの影響により、学生総会の段取りを取るのが難しくなりました。そんな中、学生課や学生主事室の先生方、各方面の協力により無事、学生会総会の予算の承認を頂くことが出来ました。ありがとうございました。

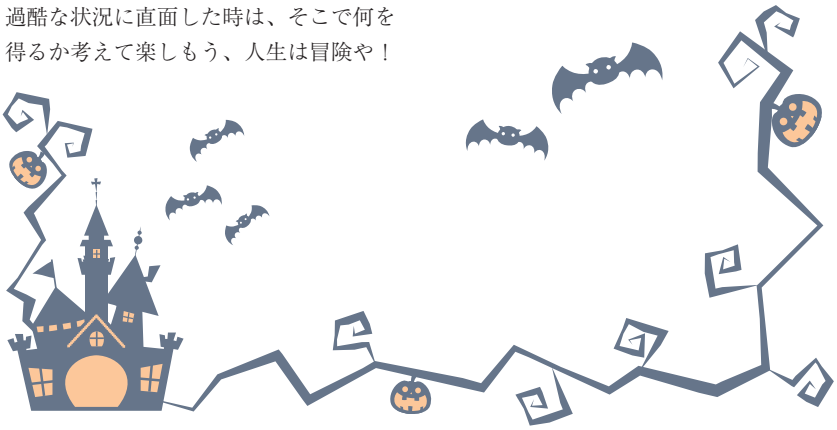
会計監査にかかわることで困ったこと、気になったこと等がありましたら、お気兼ねなくご相談ください。今年度の良かった点も改善した方がいい点も、しっかり引き継いでいきます。今後とも、皆様のご協力のほど、よろしくお願いします。

部活動紹介＆学生会紹介

総務局長
５Ｍ
田村　崚

新型コロナウイルスの影響により香々地で予定されていた１年生の新入生オリエンテーションが開催できず、今年はALHの時間を通して部活動＆学生会紹介をさせていただきました。

１年生のみなさん、何か気になる部活動はありましたか？　部活に入る期間はいつでも大丈夫なので、興味があったり何かしてみたいなと思ったりしたら、ぜひ体験しに行ってみてください！



寮生会便り

前期寮生会長

５Ｅ
吉田　圭吾

前期寮生会長の吉田圭吾です。任期も残りわずかですがよろしくお願いします。

コロナウイルス感染拡大によって学校の再開、開寮の遅れ、５年生の就職活動や受験の変化、３、４年生の研修旅行の中止など学校だけでみても様々な影響がありました。これを書いている８月３日現在も各県でコロナウイルス第２波が到来がみられ、夏休み明けもどうなるか分からなくなってきました。

僕個人としてもコロナの影響で春休みに予定していた旅行も行けなくなり、夏も夏休みの短縮で運転免許をとるだけの夏休みとなります。部活も大会がどんどん中止になったりなど高専生活最後の年を例年の５年生のように過ごせていなく、なかなかにしんどいです。

寮でもコロナウイルスの影響で完全１人部屋制であったりなど、色々な変化がありました。行事も何も出来ず、寮の強みでもある他学年との交流がなかなか難しい状況で、早くコロナ流行が収まらないかと思うばかりです。

しかし、寮にとって良い点が１つありました。それはずっと課題であったマホロバ掲示板の代わりとなるものの導入という点で、学校全体でのteamsの導入によって改善されたということです。前に他のアプリは導入しましたがなかなか全員にインストールしてもらうことが叶わず、連絡の伝達に不安があったためそこが改善されたのはかなり大きいと思います。

今は我慢のとき、そして自分が試されているときだと思います。やりたいことも感染のリスクなどを考え我慢し、ただ我慢するだけとマイナスに考えるのではなく、出来ること出来る範囲で楽しみや面白さをみつけ日々を過ごしていく。それが大切だと思います。僕も残りの任期で次に繋げれるよう何か残せるよう考えていこうと思うのでよろしくお願いします。

後期寮生会長

４Ｃ
佐藤　快成

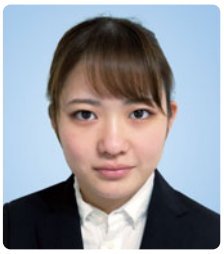
この度、寮生会長に就任しました都市環境工学科４年の佐藤快成です。
今年度は、新型コロナウイルスの影響により開寮がとても遅くみんなに会えず、寂しい思いでリモート授業を受けていました。やっと開寮したかと思えば、全員１人部屋や食堂の利用制限、他室で遊ぶことも禁止され、僕が目指していた「快適で楽しい寮」はどこへ行った？そんな感じでした…。特に新１年生にとっては辛い寮生活のスタートになったことでしょう。自分が１年生の最初の３か月なんかは毎日のように友達の部屋に集まり遊んでいた思い出ですが、そういったこともできず１年生は仲良く出来ているのだろうかと、心配の疑問を抱く程です。やっと部活動も少しずつ再開され元どおりになったかに見えましたが、それでもまだほど遠いです。コロナなんて早くどっかいけ～僕たちの楽しい寮を返せ!! といつも心で叫んでいます（笑）。

前会長の吉田圭吾さんはとても明るく下級生からも慕われる素晴らしい会長でした。そのもとで１年間副として働いた経験を活かして圭吾さんを超えられるように１年間仕事に取り組んでいきたいと考えています。会長という立場上先生方に意見などをする機会は多い方なので僕に要望などをぶつけてもらい先生との架け橋のような会長になりたいです。

この一年間の任期の間に少しでも寮生みんなにとって生活しやすい環境を他の寮生会のメンバーと協力し合い作れたらいいなと思います。

これからの予定として、前期の間に企画されていた寮生バレーボール大会などが中止になった分、後期で開催ができるようにコロナ対策を十分したうえで先生方と相談出来たらいいなと思います。また12月に開催予定の寮祭に関しても例年のはるか上を行くような新しい企画を考えています。乞うご期待ください。

（女子）寮 寮長



５Ｍ
原　成美

１寮長の原成実です。

１寮は、男子寮とちがい全学年の女子が１つの建物で生活しており、１寮独自の規則も存在します。それに加え、今年度の生活は、コロナウイルスの影響で昨年度まで行っていた歓迎会等も行うことができず、お風呂の時間、ご飯の時間等の制約も増え、昨年度までの寮に比べ自由度が下がってしまったと思います。

このような状況で、私自身もどうしてよいかわからずあたふたしてしまい、対応が遅れてしまうことも多々あり、迷惑をかけてしまい寮生全員わからないことが多かったと思います。特に、新１年生は生活環境も変わり周りは知らない年上ばかりの中で突然生活がスタートし戸惑ったと思います。そんな中でも、１寮生全員が協力してくれたおかげで、現在寮生活が行えていると思います。ありがとうございます。

まだまだコロナウイルスの影響は続いていくため、当面はこの制約の多い生活が続くと思います。少しでも過ごしやすい寮にすることができればいいなと考えているので、意見、要望等あれば声をかけてください。

本科　新入生・留学生の声

高専生活について

新

１Ｍ　鷹尾　弥往

僕が高専について伝えたい内容は２つあります。１つ目は自由度の高さです。もちろん何をするにも自己責任という言葉を意識しなければいけませんが、切り替えさえできれば楽しい５年間を過ごせると思います。学習環境はとても良く、先輩方や先生方に質問したら丁寧に答えてくれるので、今のところは特に困ったこともなく楽しく過ごせています。

２つ目の伝えたいことは寮生活についてです。僕は寮に入る前、わからないことが多く不安でしたが、先輩方が大変優しく寮生活について教えてくれたので特に不自由なく生活できています。今年は新型感染症の影響で普段より規則は厳しくなっていますが、日常生活をしていく分には全く問題ない程度なのでストレスがたまることはあまり無いと思います。それどころか規則正しい生活をするようになるので、普段より調子が良くなるかもしれません。

これからも楽しい学校生活を送っていけるように頑張っていきたいと思います。

高専での生活

新

１Ｅ　岡原　圭都

僕たちはこの新型コロナウイルスにより、４月から授業が始まるはずが５月から、それも対面授業ではなくYouTubeなどを通した遠隔授業。このように特殊な環境で授業を受けた自分は、学校の大切さを痛感しました。そして、ついに６月から分散登校が始まり、やがて全学年が同時に登校できるようになりました。オリエンテーションなど、例年はクラス内の親睦をはかるための行事も友達と話す時間もなかったため、クラスのみんなの名前を覚えるのもかなり大変でした。遠隔授業の間はクラスみんなの顔が見えない為、名前を覚えても顔と名前がなかなか一致しないなど最初はとても大変でしたが、少しずつですが、仲を深めることができました。

今年は新型コロナウイルスの影響で、様々な行事が中止・延期となってしまいましたが、それでもめげずに頑張っていきます。

高専で大切なこと

新

１Ｓ　牧　暖人

私が高専に入学して大切だと思ったことは、勉強時間の確保と課題をしっかりと提出することです。

高専は自由なところが多く、課題もほとんどありません。しかし、高専のテストの欠点は60点と高く、勉強をせずにいると簡単に留年してしまいます。そのため、勉強時間をしっかりと確保し、授業で習ったことをしっかり理解することが大切となってきます。

また、高専では課題を出さずとも色々と言われたりはしませんが、進級するときの100点のうちの20～30点は課題点であり、かなり点数が大きいです。課題は、多くの先生がテストの点数が足りなかった人への救済措置として出していて、このことからもしっかりと課題をしたほうがいいということがわかります。

私はこの二つのことをしっかりと胸に刻み、楽しい高専生活を送っていきたいです。

高専に入学して思ったこと

新

１Ｃ　合原　武志

僕が高専に入学してから４か月が経ちました。僕が最初に気付いたことは勉強の難しさと進度の速さです。一番進度が速いと感じたのは数学です。数学は内容も難しく、中学校の頃から数学が苦手な僕にはとても難しいと思いました。しかし高専では数学が一番必要な事は入学する前からわかっていたので、これからも頑張って数学を勉強して専門科目の勉強につなげていこうと思います。

そして僕が２つ目に気が付いたことは寮のありがたさです。僕の家は高専から結構遠くにあるのですが、寮に入ることでその通学時間をなくすこともでき、寮に居る同級生とも友達になることが出来て、とてもいい高専の学生生活をスタートすることが出来ました。

僕が３つ目に気が付いたことは部活動の種類の多さです。他の高校に比べてとても多く、自分がしたいと思う部活動を見つけやすいと思います。

僕はこれから自分がしたいと思った部活と勉強を両立させていきたいです。

日本での留学生活

留

３Ｍ　イルハム

私はイルハムです。インドネシアから来ました。日本に留学する理由としては、インドネシアでよく販売される電気製品や自動車などはほとんど日本ブランドなので、その技術を学びたいと思っているからです。ひらがなしか知らなかった日本語で日本に来て、１年間東京で日本語学校を受けました。大分高専に入学して、ここから日本の文化や技術をたくさん学んで、将来に良い経験になると私が信じています。

現在、世界中は新型コロナウイルスで大きな影響を受けています。いつ学校に行けるのかを心配しました。それでも、大分高専の対策のおかげで、すぐに学校に行けたので私はとても感謝しました。この前は遠隔授業を受けていましたが、対面授業が始まってから、クラス仲間や先生方と会えて幸いです。寮生活もうまくできて、安心できます。確かに、生活に変わることがいろいろありますが、それはウイルスの拡大の予防のため、しょうがないと思います。今までも私は、皆さんと一緒に、最後までノーマルな生活に向かうのを協力して頑張ります。

地域共創テクノセンターから

高等専門学校（高専）では教育研究活動に加えて、積極的な「地域貢献（地域連携）」に関する活動も推進しており、大分高専においても平成13年度に、従来の実習工場と共同教育研究センターを工業技術に関する教育と研究のための学内共同利用施設に統合し、総合教育研究センターを設置しました。

平成18年度には地域との連携交流をさらに促進するため、名称を地域連携交流センターと改称、さらに、平成29年度には、これまでの産学官連携活動を強化して新たに地域共創を展開するため、地域連携交流センターと環境科学技術センターを改組し、地域共創テクノセンターとして生まれ変わりました。

地域共創テクノセンターでは、連携協定を締結している大分県が掲げている「安心・活力・発展プラン」を基に「南海トラフ」、「温泉県おおいた」、「豊の国共創」の３つのキーワードを掲げて、「安心部門」、「活力部門」、「発展部門」に加え、これまで活動を行ってきた理科教育支援を含む「知力向上部門」の４部門を設け、本校の全教員がいずれかの部門に所属することにより、学科を越えた連携研究を行います。

地域共創テクノセンターには、運営委員会メンバーの教職員組織といったソフト対応部分と本部、共同教育研究棟、共同プロジェクト研究棟及びICT分析・計測実験室等のハード対応部分があり、各科教職員が展開する研究や共同研究等に利用されている外、学外の教育研究機関や企業研究者あるいは技術者の方々にも本校設置の機器類を利用していただくことが出来る仕組みがあります。

また、地域連携の活動拠点として、次のような取組みや活動を主に行っています。

- 技術相談窓口、共同研究、受託研究、寄附金の受入れ
- 技術講習会、講演会、公開セミナー及び小学生から社会人までの幅広い年齢の方を対象とした講座の実施
- 「科学と遊ぼう！」の実施等、地域文化、マインド形成への貢献を目的とした科学技術教育支援活動
- コンクリート受託試験の実施
- 大分高専テクノフォーラムとの連携による技術講演会（年２回）の実施

このような活動は社会のニーズと本校の誇る研究教育能力の接点を増やす貴重な機会であり、本校教職員が一丸となって取り組んでいるものです。

テクノフォーラム 第30回技術講演会

科学と遊ぼう！

公開講座

技術創出、地域貢献

大分高専 地域共創テクノセンター 副センター長　笠間　俊次

(1)「産」には科学検証の暇がなく、「学」には実業の着地点が見えません。産と学がうまく連携すれば、技術開発は効率化し社会貢献にも繋がります。

(2)私は長らく製造業に従事し、実業と科学の両輪を回してきました。本校ではその経験を活かして、開発企業様と高専研究者の技術マッチングから産学官連携研究のコーディネートまで、真摯に対応させていただきます。

大分高専地域共創テクノセンター

安心部門
- 防災研究と防災士養成
- 水環境保全
- 紛争・交渉力

南　海　トラフ

活力部門
- 農工連携研究
- IoT，AI技術
- 温泉システム

温泉県おおいた

発展部門
- ニッチトップ（小水力，地熱）
- 有望分野（電力自由化，水素）
- ドローン

「豊の国」共　創

知力向上部門
- 地域公開講座及び出前授業

大分高専の全教員が各部門のいずれかに所属しています

国内インターンシップ報告

４M　髙嵜　陽奈

私は９月８日から９月12日までの五日間、大分県内にある株式会社カンセツのインターンシップに参加させていただきました。カンセツは機械設計を行う設計会社です。インターンシップでは主に、治具を商品化するための設計案を考えました。設計をするにあたって、商品の作業性の良さや安全性、またコストや加工のしやすさなど、他にもあげるときりがない程に考慮すべきことが沢山あります。しかし、実際に一人で考えているとどうしても視点が固まってしまいます。そういった時に、他の人の意見を聞くことで新たな視点から考えることができました。この五日間、それを実際に体験したことで、チームワークの重要さ、自分の意見をしっかりと伝えることの大切さを学びました。また、インターンシップを通して身の回りの機械への感謝が大きくなりました。より安全に、より使いやすいようにと、誰かのことを考えたうえで完成したものだと思うと感動します。それと同時に、私も将来誰かのためになるものづくりが出来るように、今は知識をしっかりと蓄積していかなければなりません。残り少ない高専生活ですが、将来のためになるような日々を過ごしていきたいです。

４E　田坂　　隼

私は９月８日から９月11日までの４日間、ソニー・太陽株式会社のインターンシップに参加させていただきました。主な研修内容は、生産革新について学び、ペットボトルホンを作製し、そのインピーダンスや周波数特性等のデータを計測し、そのデータを実際に販売されているヘッドホンのデータとの比較・考察をし、社員の皆様の前で発表しました。今回の研修を通して私が学んだことは意見を出すことの大切さです。私は昔から自分の意見をハッキリと言うことができず、そのまま自分の中にしまい込みがちでした。ですが、モノづくりにおいては、未然に問題を防ぐために意見を出すことが大事であると学びました。自分の口から言うと、つい遠慮してしまいがちな私でも書くことならできるのではないかと、たくさんの意見を書き出し、形にすることができました。

後輩の皆さんへのアドバイスとしては、意見を出すことに加え、集団での仕事は意思疎通が不可欠ですので、まずは挨拶等を普段から徹底し、たくさんの人とコミュニケーションをとり、積極的な姿勢で臨んでほしいと思います。焦らず前向きに、頑張ってください。

４S　小野　竜也

私は８月31日から９月４日までの５日間、株式会社ビーネックスソリューションズのインターンシップに参加させていただきました。同社は「ITに特化した派遣事業会社」としてシステムの開発や運用保守の支援など、幅広いサービスを提供している企業で、特に自動車分野の組み込みソフトウェア開発を得意としています。今回の研修では、その組み込みソフトウェア開発の流れを体験しました。

体験では、現役のエンジニアの指導の下、プログラムの作成とシステムの仕様書の作成・説明を行いました。この体験で自分が感じたことは、システムの仕様を説明することの難しさです。仕様書の目的はシステムの実現する機能を顧客へ伝えることであり、作成するシステムによって適した伝え方は異なります。そのため、決まった形式や枠組みを作るのではなく、図や表の使い方を都度考えることが重要であると学びました。こうした伝え方を考える力は、学校の授業で課されるレポートやプレゼンテーションの作成でも鍛えることができると考えられます。今後私は、一つ一つの課題に丁寧に取り組み、分かりやすい文章の書き方や図表の使い方を身に着け、有効に使える表現の幅を増やして将来に活かしていきたいです。

4C　吉高　優心

私は８/31～９/４の５日間、大分県庁のインターンシップに参加させていただきました。

この研修では大分県の土木建築に関する事業の仕組みについて学習しました。

研修内容としては大分県庁や土木建築部の仕組みやその役割、職務内容について学習しました。また災害復旧工事や大分県で取り扱っている現場の見学を行いました。

今回の研修を通して、自分の将来をより考えるきっかけになりました。自分で調べるだけでは得ることができない情報ばかりで、より県職員という職業に興味を持つことができました。

後輩に向けて伝えたいことは、自分が将来したい事を考えて調べてもらいたいということです。研修を通してたくさんの情報と勉学に対するやる気を得ることができました。インターンシップや企業説明会等に積極的に参加して欲しいと思います。ぜひ頑張ってください。